

地域防災指導員養成講習会——地域の受援力を高める

災害ボランティアセンターと 平時からの「繋がり」

令和8年7月18日

藤枝市社会福祉協議会 福祉推進課 地域支援係

公助の限界と ボランティアの力



「自分たちだけ」で頑張りすぎない復興への備え

2025年9月 牧之原市、吉田町、焼津市の竜巻被害

突発的な災害がもたらす混乱

一瞬で奪われる日常

台風とは異なり、予測困難な猛烈な突風が住宅街を直撃しました。

広範囲かつ深刻な損壊

屋根瓦の飛散、窓ガラスの破損、飛来物による二次被害が多発。

「公助」が届くまでの空白

発災直後の瓦礫撤去は、地域の繋がりに委ねられました。



出典：焼津市社会福祉協議会より

災害ボランティアセンター(VC)の3機能

ニーズの発見

潜在化しやすい課題を掘り起こし、誰一人取り残さない支援の窓口となります。

マッチング

被災者の「困りごと」と、ボランティアの「力」を適切に結びつけ、安全に管理します。

専門機関への仲介

一般ボランティアでは対応困難な専門的修理・福祉的ケアを、適切な機関へ繋ぎます。

「作業」以上の価値「心の復旧」



孤独を癒やす応援の力

- ◎ボランティアは労働力ではなく、被災者に「寄り添う力」
- ◎「助けてくれる人がいる」という安心感が、**孤立を防ぎ前を向く力**になる
- ◎外部の人が入ることによって、**沈んでいた地域の空気が動き出す**

なぜ「助けて」と言えないのか？

被災者の心のブレーキ

- 「隣の人の方が大変だから、我慢しよう」という遠慮
- 「汚れた家の中を他人に見られたくない」という心理
- 「どこに、何を頼めばいいかわからない」という混乱

指導員による「具体的な提案」

「大丈夫？」という問いには、つい「大丈夫」と答えてしまいます。

「瓦が危ないから、片付けをサポートする仕組みを使いましょうか？」
と、具体的なメニューを提示することが受援力を引き出す鍵です。

防災指導員の皆さんにちょっとお願い・・・

2. VC（ボランティアセンター）へつなぐ

本人の代わりに社協(災害VC)へ情報を繋ぎ、支援を要請する。

4. 事後も見守る

支援終了後も「その後、体調はどうですか？」と継続して気にかける。

1. 地域を見守る

普段から要配慮者を気にかかけ、異変にいち早く気づく。

3. 現場を支える

ボランティアを誘導し、地域の配慮事項を伝える。

指導員は「地域のアンテナ」

● 情報の聞き取り

ご近所の「いつもと違う様子」を察知し、外部には言えない本音を吸い上げる。

● 正しい情報の普及

公的仕組みで無料であること等を伝え、ボランティアへの不安を解消する。

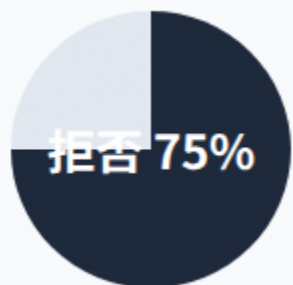
● VCとの橋渡し

地域の特性や配慮事項を応援メンバーに伝え、円滑な活動を支える。



平時の「繋がり」が受援力を決める

① 全く繋がりのない世帯



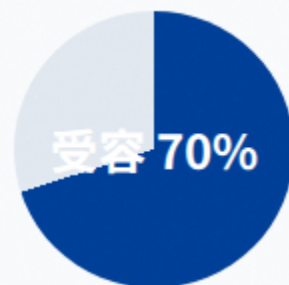
知らない人を家に入れたくないという警戒心

② 挨拶を交わす世帯



少しの安心感が生まれ、仕組みの検討が始まる

③ 立ち話をする世帯



関係性があるため「お互い様」と頼みやすい

④ 指導員が関わる世帯



顔見知りが仲介し、安心なサポートと理解

顔見知りの指導員が間に立つことで、住民は安心して助けを受け入れられます。

2022年 台風15号 (藤枝市)

ボランティア依頼件数

138件

延べ活動人数

514名



このSOSを拾い上げたのは、一軒一軒歩いて声をかけてくださった
町内会長や防災指導員、民生委員の方々でした。

明日からできるアクション

◎ご近所の顔を増やす

普段の挨拶が、いざという時のSOSのハードルを下げ、受援力を高めます。

◎配慮者の居場所を知る

平時にどこに誰がいるか把握しておくことが、迅速な安否確認の要です。

◎仕組みの周知

「ボランティアは社協が窓口で、公的で安心な力だよ」と周囲に広めてください。

共に、

災害に強い藤枝市を創りましょう。

藤枝市社会福祉協議会 | 災害ボランティアセンター



藤枝市社協公式

SNS

